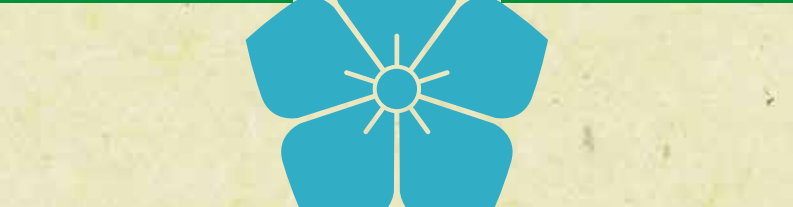


# 下街道マップ

## 岐阜県東美濃版



内津峠の馬頭観音 高山城跡物見櫓



土岐氏一日市場館跡 横ヶ根立場にあった常夜燈

## 多治見の観光地

虎溪山永保寺(2件の国宝建造物)



臨済宗南禅寺派の禅寺。鎌倉時代末期正和2年(1313年)夢窓国師開祖、仏徳禪師開山。国宝の観音堂と開山堂があり、国の名勝庭園指定の広い庭園はみごと。

## 神言修道会多治見修道院



昭和5年(1930年)にカトリック神言修道会が、宣教師モールド神父により設立した男子修道院。広大な敷地にぶどうが栽培されている。大聖堂の見学は月曜日休み。  
※カトリック多治見教会 TEL:0572-22-1583

## 各市観光案内所

- 多治見駅観光案内所**  
多治見市首羽町2 JR 多治見駅 2F  
Tel:0572-24-6460
- もとてらす東美濃** (土岐市観光協会)  
土岐市土岐ヶ丘 テラスゲート土岐内  
Tel:0572-55-1123
- 瑞浪市観光協会**  
瑞浪市上平町5-5-1 瑞浪市産業振興センター1F  
Tel:0572-51-8161
- 恵那市観光協会**  
恵那市大井町286-25 タウンプラザ恵那  
Tel:0573-25-4058

## 下街道サミット 加盟団体

(下街道沿道地域活性化連絡会加盟団体)

- 多治見市 多治見観光ボランティアガイド
- 多治見市 池田町屋の郷土史を学ぶ会
- 土岐市 土岐市観光ガイドの会
- 土岐市 高山城高山宿史跡保存会
- 瑞浪市 みずなみかたりべの会
- 恵那市 中山道かたりべの会

## 下街道沿道地域活性化連絡会

助成: とうしん地域振興協力基金

## もとてらす東美濃



テラスゲート土岐まちゆい内にある東美濃7市町の観光情報を総合発信する施設。(一社)土岐市観光協会が運営。4つのブースに東美濃地域の魅力がぎゅっと詰まっている。



- 内津峠の馬頭観音**  
高さ147cm幅76cmの観音は馬と旅の安全を祈るために祀られた。馬車荷車を扱う愛岐組により明治27年(1894年)建立。
- 石堂山永泉寺**  
曹洞宗の寺院。木造聖観音立像は国重要文化財である。境内の銀杏は開山・雲山和尚のお手植えと伝えられ、市の天然記念物に指定。文化財の見学は不可。
- 池田町屋の常夜燈**  
文政9年(1826年)に建立。高さ4.7mで4段の台石が重量感を与える。下街道で一番の大きさ。
- 多治見国長邸跡**  
江戸末期から明治にかけて西浦焼で名を成した西浦家(西浦園治)の庭園である。明治13年6月29日明治天皇巡幸の際、西浦家の離れに宿泊された。その建物は現在、京都の宝篋院に移築保存されている。
- 多治見国長邸跡**  
多治見国長は美濃守護・土岐頼貞の同族。後醍醐天皇による鎌倉幕府倒幕計画に参加するが、一族の妻の密告で非業な最期を遂げる。正中の変:正中元年(1324年)9月。
- 西浦庭園・行在所跡**  
江戸末期から明治にかけて西浦焼で名を成した西浦家(西浦園治)の庭園である。明治13年6月29日明治天皇巡幸の際、西浦家の離れに宿泊された。その建物は現在、京都の宝篋院に移築保存されている。
- 秋葉山常夜燈**  
文化9年(1812年)に建立、多治見の東入口を燈す明かり。津島神社と秋葉神社が併座、疫病除けと防火を祈願。
- 神明神社**  
明応8年(1499年)新羅神社の境内社として祀られ、明治14年(1881年)この地に遷座された。天照大神を祭祀している。日露戦争の忠魂碑が立っている。その建物は現在、京都の宝篋院に移築保存されている。



- 中山神明神社**  
天照大神を祀る。東征の帰路、日本武尊がこの神社の湧き水で腹痛を直し熱田へ向かったという伝承があり、天正11年(1583)再建の記録が残る。神明峠は内津峠に並ぶ難所の一つ。
- 明治天皇駐蹕碑**  
明治13年(1880)の明治天皇巡幸の際、馬車から板神輿に乗り換え、神明坂の難所を越えられた。大正14年(1925)天皇巡幸の意義を後世に伝えるため、山県有朋書の石塔が建てられた。
- 十王堂**  
閻魔大王など、冥土で亡者の罪を裁く十王像を祀る。生前に供養すれば罪が軽くなるという庶民信仰のひとつ。江戸初期のものと考えられ、顔料で彩色を施した寄木造りの像。市指定文化財。
- 馬除場の碑**  
文化年代(1804~)の刻があり、街道が狭かった江戸時代、馬のすれ違い、停泊、馬糞場であることを示すとされる珍しい石碑。
- 三本松(肥田川の渡し)**  
浅野村と下肥田村の境を流れる肥田川が土岐川に合流する場所に設けられた渡し場の跡。享保4年(1804)の取り決めでは橋賃2文とあるが、値上げや増水時の増額などがあった。
- 三本松(肥田川の渡し)**  
下肥田村と河合村の間で、通常は3文とされていたが、法外な橋賃となることもあり、旅人を苦しめた。近くには馬頭観音・道標あり。市内には妻木川、肥田川と3か所の渡しがあった。
- 中山神明神社**  
伊オンモール土岐
- 御幸十五堂**  
閻魔大王など、冥土で亡者の罪を裁く十王像を祀る。生前に供養すれば罪が軽くなるという庶民信仰のひとつ。江戸初期のものと考えられ、顔料で彩色を施した寄木造りの像。市指定文化財。
- 熊野神社**  
文治5年(1189)土岐光衡創建。永禄5年(1562)熊野権現として再建とされ、主祭神は伊弉那美命。日本武尊が東征の帰路、日が暮れ駐泊したとの伝承があり、「日暮らしの宮」ともいう。
- 高山城跡**  
承久の乱(1221)の頃、土岐源氏の館を守るための砦が設けられたという。織田・武田の戦国時代から東濃関が原合戦まで、高山城争奪戦が繰り返された。江戸初期の一國一城令で廃城。
- 三本松(肥田川の渡し)**  
浅野村と下肥田村の境を流れる肥田川が土岐川に合流する場所に設けられた渡し場の跡。享保4年(1804)の取り決めでは橋賃2文とあるが、値上げや増水時の増額などがあった。
- 三本松(肥田川の渡し)**  
下肥田村と河合村の間で、通常は3文とされていたが、法外な橋賃となることもあり、旅人を苦しめた。近くには馬頭観音・道標あり。市内には妻木川、肥田川と3か所の渡しがあった。

## 下街道とは?

名古屋市中区錦2丁目にあった「伝馬会所礼の辻」を起点として、名古屋市を北東へ大曾根から恵那市の「中山道」横ヶ根追分に至る約15里の街道である。

江戸時代に中山道と名古屋城下を結んだ脇往還で、善光寺道・釜戸道・名古屋道、伊勢道とも呼ばれ、庶民の街道であった。

古くは、日本武尊が東征の帰路に、また正和2年(1313年)多治見を訪ねた夢窓国師が古刹永保寺を開創した時、そして戦国時代にも利用された。

明治13年(1880年)には明治天皇も便利なこの道を巡幸されたように、歴史ロマンに満ちた街道である。



下街道を保存・伝承するため、4市のボランティア団体(6グループ)が共通の案内板を設置しています。



### 下街道の道標



下街道のシンボル樹(金木犀)と説明文 下街道の名所案内